

HTEC

Honda Technical College kansai

学校法人ホンダ学園
ホンダ テクニカル カレッジ 関西

〒589-0012 大阪府大阪狭山市東くみの木2丁目1937番地の1
 TEL:072-366-9011 FAX:072-360-2230

発行責任者
 校長 村上 洋

ホームページ・ケータイ サイト
http://www.hondacollege.ac.jp/honda_w/

QRコード対応
 ケータイで
 簡単アクセス!



ホンダ学園 学園祭 2008

今年で7年目を迎えるホンダ学園祭。今年も数多くのお客さんを迎え、盛り上がりがありました。今年も数多くのお客さんを迎え、盛り上がりがありました。今年も数多くのお客さんを迎え、盛り上がりがありました。



体感!HondaのDNA!

9月20日(土)、HTECでホンダ学園祭が開催されました。ホンダ学園祭は今年で7年目を迎え、大人から子供まで誰もが楽しめる学園祭として、毎年数多くのお客さんを迎え、盛り上がりがありました。

当日は、学園祭の原点といえる「技術コンクール」や「安全運転コンクール」をメインに、「F1エンジン始動」や自動車研究開発科の「フォーミュラカー走行」など、自動車専門学校の特色を活かした魅力溢れるイベントが行われました。

また今年、男性が女性に扮し、誰が一番「綺麗」かを競う「Missコンテスト」というユニークなイベントも開催され、大いに会場を沸かしました。

多数開催されたイベントの中で人気を博したのは、二輪整備同好会による「鈴鹿8耐ピットデモ」です。二輪整備同好会のメンバーは、決勝レースさながらのタイヤ交換・給油を見せつけてくれました。また、ライターの白上貴紀先生によるバーンアウトは、校庭一面に煙が広がって見えないほどの迫力のパフォーマンスでした。



白上先生によるバーンアウト



皆いもん大集合の模擬店も多数出展



自動車研究開発科によるフォーミュラカー走行



安全運転コンクール

学園祭にF1サウンドが響きわたる(写真右)



男性が女性に扮する「Miss コンテスト」(写真下)



学園祭実行委員
堀 元気 くん

今年の学園祭は、「Miss コンテスト」などの新しいイベントに加え、前年を越える盛り上がりを見せ、大成功で幕を閉じることができました!今回の学園祭に向けて4ヶ月前からプロジェクトを進めてきただけに、この大仕事をやり遂げることができ、本当に嬉しく思っています。



「Miss コンテスト」優勝
谷口 将哉 くん

「女装するなんてありえない!」と思いましたが、クラスメイトの励みもあり、決意を固めて、着てみることに。女装して、メイクで自分の顔がみるみる変わっていくのには正直驚きました。それと同時に、女性の苦労も身にしみて感じました。今回の体験が整備に活かされるかは分かりませんが、とても貴重な経験ができました。



写真右 女装した谷口くん

「命をつなげる」普通救命講習

9月30日(火)、大阪狭山市消防局の方にお越しいただき、1年生を対象に普通救命講習を開催しました。

この講習は、心肺蘇生法やAED(自動体外式除細動器)の使い方を学生たちに学んでもらうことが目的です。



心肺蘇生法のひとつである人工呼吸の講習



消防隊員の指導のもと心肺蘇生法を学ぶ学生

とで、病气やけが等により突然意識を失ったり、呼吸停止、心停止、またこれに近い状態になったときに、救命へのチャンスを維持することが出来ます。学生たちは隊員の方の指導のもと、ダミー(練習用人形)を相手に心臓マッサージを行ったり、AEDを使用して電気ショックを行ったりと、真剣な表情で講習に取り組みっていました。

保護者ワクワク工場見学

9月23日(火)、30名の保護者の方が参加し、本田技研工業(株)鈴鹿製作所の工場見学が開催されました。

工場内の生産ラインは、二見すると簡単な作業を行っているように見えますが、鋳物・板金から完成車の流れを考えた場合、計り知れない創意工夫の後が見られます。



保護者のみなさんと鈴鹿製作所の前にて

完成域に近い生産ラインなので、経営陣や裏方の方々の努力・苦労、またライン作業員の方々の改善活動で成り立っていることが推測出来ました。物造りから販売まで手がけるメーカーに属する私の立場から見ても、理想的な工場として映った次第です。参加者の皆様とも会話が弾み、有意義な3日を過ごせた工場見学でした。

自動車研究開発科 2年生

「全日本学生フォーミュラ大会」33位!

自動車研究開発科2年生は、9月9日~13日の5日間、静岡県袋井市「小笠山総合運動公園(エニパ)」で開催された全日本学生フォーミュラ大会に出場しました。

全日本学生フォーミュラ大会は、学生たちが企画・設計・製作したフォーミュラスタイルの小型レーシングカーで競技を行います。

大会に挑んだ自動車研究開発科2年生は、目標の上位入賞は逃したものの、全競技リタイヤすることなく出場し、昨年より4つ順位を上げ33位を獲得しました。

大会を終えた学生たちからは、「大会前の準備が不十分だったので、次のアメリカ大会では万全の体制で臨みたい!」今回の結果は悔しい。次は入賞を目指します!などの声がかれました。

3年次に開催される学生フォーミュラアメリカ大会では、入賞を目指し、総力を挙げて頑張ります。

